

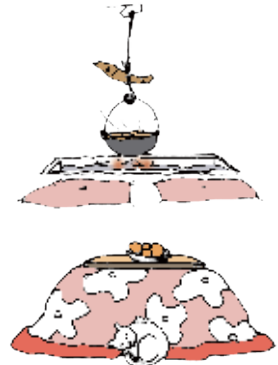
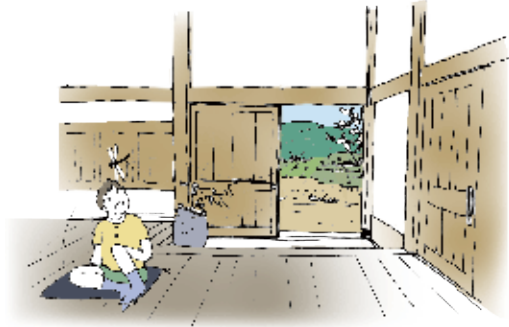
1

住宅断熱の移り変わり

戦前～戦後

雨露をしのぐ

玄関土間に続く囲炉裏のある居間を中心とした住宅が一般的で、夏には縁側から涼やかな風を取り込み、暑さを和らげていました。しかし、冬には建具の隙間風に悩まされ、囲炉裏や火鉢、コタツで暖をとっていました。



昭和

30年代

個室化の波、アルミサッシなどの登場

昭和30～40年頃から窓や壁が改良され、隙間風が入らないよう間仕切り壁や建具への配慮がされ始めました。また、子供部屋や寝室などの使い方に応じて、部屋が細かく分かれ始めたのもこの頃です。

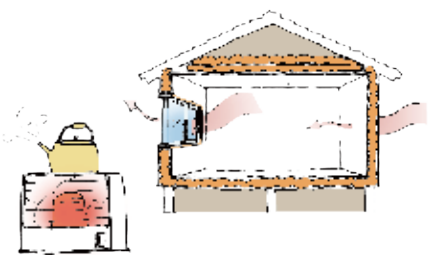


40年代

50年代

断熱性の意識と設備の普及

昭和50年代になり、エアコンやストーブなどの性能が高まり、設備機器が一般家庭に普及しました。住宅の断熱性や機能性に対する関心も芽生え、生活環境が改善され始めました。



平成

これから

断熱性の向上と快適な生活空間

これからの住宅は、家族が健康で快適、かつ経済的な生活をおくることができる、良好な生活環境を確保するため、気密、結露対策を含めた断熱性と耐久性の高い省エネ住宅であることが求められます。

